調査団の審問　安息日をめぐって

□前回のハイライトからのつながりと今回のアウトライン

メシア宣言とイスラエルの教師の来訪　　紀元 27 年春

ヨハ 3:22-36
ルカ 3:19-20

1. バプテスマのヨハネの証言、ペレア（ヨルダン川東側）での収監
2. サマリア経由でガリラヤへ、サマリア人たちがイエスをメシアとして信じる
3. ガリラヤにて、ユダヤ人たちがイエスを信じる　ヨハ 4:43-45
4. イエスがメシアとしての権威を次々と示す

マタ 4:12
マコ 1:14a
ルカ 4:14a
ヨハ 4:1-42

(1) 教えにおける権威　マタ 4:17,　マコ 1:14b-15,　ルカ 4:14b-15
(2) 癒やしにおける権威　ヨハ 4:46-54
(3) ナザレでの最初の拒否　ルカ 4:16-31→伝道拠点をカペナウム　マタ 4:13-16
(4) 悪霊に対する権威　マコ 1:21-28,　ルカ 4:31b-37
(5) 病気に対する権威　マタ 8:14-17,　マコ 1:29-34,　ルカ 4:38-41
(6) 教えにおける権威　マタ 4:23-25,　マコ 1:35-39,　ルカ 4:42-44
(7) 自然に対する権威　マタ 4:18-22,　マコ 1:16-20,　ルカ 5:1-11

最初のメシア的奇跡と議会調査の開始　　議会調査＝観察・審問・判定

観察
(8) 汚れに対する権威　マタ 8:2-4,　マコ 1:40-45,　ルカ 5:12-16
(9) 罪を赦すことの権威　マタ 9:1-8,　マコ 2:1-12,　ルカ 5:17-26

審問
(10) 人に対する権威　マタ 9:9-13,　マコ 2:13-17,　ルカ 5:27-32
(11) ユダヤ教の伝統に対する権威　マタ 9:14-17,　マコ 2:18-22,　ルカ 5:33-39

調査団の審問　安息日をめぐって（安息日に対するメシアの権威）　　紀元 28 年春

I. ベテスダの池の回廊で 38 年も病気で横になっている人を、安息日に癒やして床を取り上げ歩かせた出来事を通して

II. 弟子たちが安息日に麦の穂を摘んで食べた出来事を通して

III. 片手の萎えた人を安息日に癒やした出来事を通して

I.　ベテスダの池の回廊で 38 年も病気で横になっている人を、安息日に癒やして床を取り上げ歩かせた出来事を通して（ヨハネ 5：1～18）

A）からだの癒やし、「床を取り上げて歩け」との命令（ヨハネ 5：1～9）

1～３節　**その後、ユダヤ人の祭りがあって、イエスはエルサレムに上られた。エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があり、五つの回廊がついていた。その中には、病人、目の見えない人、足の不自由な人が、からだに麻痺のある人たちが大勢、横になっていた。**

4～7 節　**そこに、３８年も病気にかかっている人がいた。イエスは彼が横になっているのを見て、すでに長い間そうしていることを知ると、彼に言われた。「良くなりたいか。」病人は答えた。「主よ。水がかき回されたとき、池の中に入れてくれる人がいません。行きかけると、ほかの人が先に下りて行きます。」**

- 「主よ」：神を意味する主ではない。一般的な「ご主人さま」の意味。
- 「水がかき回されたとき」：池の水が波だったときは、天使が降り立ったとき、そのとき真っ先に池に入った病人は癒されるという伝承。

8～9 節　**イエスは彼に言われた。「起きて床を取り上げ、歩きなさい。」すると、すぐにその人は治って、床を取り上げて歩き出した。ところが、その日は安息日であった。**

B）安息日に床を運搬するのを見たパリサイ派からの停止命令（ヨハネ 5：10～13）

10 節　**そこでユダヤ人たちは、その癒された人に、「今日は安息日だ。床を取り上げることは許されていない」と言った。**

- パリサイ派が設けた安息日に関する規則では、自宅の寝室で床を取り上げて、室内で運ぶことは労働に当たらないが、自宅を出て道路などで運ぶと、それは労働にあたり、安息日にしてはならないことになる。

11～13 節　**しかし、その人は彼らに答えた。「私を治してくださった方が、『床を取り上げて歩け』と私に言われたのです。」彼らは尋ねた。「『取り上げて歩け』とあなたに言った人はだれなのか。」しかし、癒やされた人は、それがだれであるかを知らなかった。群衆がそこにいる間に、イエスは立ち去られたからである。**

C）霊的な癒やし（ヨハネ 5：14～15）

14～15 節　**後になって、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたは良くなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないと、もっと悪いことがあなたに起こるかもしれない。」その人は行って、ユダヤ人たちに、自分を治してくれたのはイエスだと伝えた。**

D）パリサイ派の反応（ヨハネ 5：16～18）

16～18 節　**そのためユダヤ人たちは、イエスを迫害し始めた。イエスが安息日にこのようなことをしておられたからである。イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。それでわたしも働いているのです。」そのため、ユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っていただけでなく、神をご自分の父と呼び、ご自分を神と等しくされたからである。**

- 「**安息日を破っていた**」とは、モーセの律法の中の安息日に関する規定を破ったということではなく、パリサイ派が設けた安息日に関する規則に従わなかった、ということ。このような規則を口伝律法と呼ぶ。

II.　弟子たちが安息日に麦の穂を摘んで食べた出来事を通して（ルカ 6：1～5）

A）弟子たちの行動（ルカ 6：1～2）

1～2 節　**ある安息日に、イエスが麦畑を通っておられたときのことである。弟子たちは穂を摘んで、手でもみながら食べていた。すると、パリサイ人のうちの何人かが言った。「なぜあなたがたは、安息日にしてはならないことをするのですか。」**

- ユダヤ教パリサイ派の口伝律法に照らすと、違反・・・穂を摘む＝収穫する、手で揉む＝脱穀する、殻を息で吹きとばす＝実と殻を分別する（通常は、箕から上に放り上げて、軽い殻を風で吹き飛ばす）、口に入れて歯で租借する＝製粉する

B)　イエスの応答①（ルカ 6：3～4）　　Ⅰサム 21：1～6 の出来事

3～4 節　**イエスは彼らに答えられた。「ダビデと供の者たちが空腹になったとき、ダビデが何をしたか、どのようにして、神の家に入り、祭司以外はだれも食べてはならない臨在のパンを取って食べ、供の者たちにも与えたか、読んだことがないのですか。」**

- パリサイ派は、口伝律法の正統性を主張するために、口伝律法は自分たちが作ったものではなく、モーセの頃から存在していて、モーセが書いた律法とは別に、ずっと口伝で伝えられてきたものだ、と教えていた。
- 口伝律法の中には、【幕屋の中に供えるパンは、祭司以外は食べてはならない】という規定がある。もし口伝律法がモーセの頃から存在していたなら、ダビデは口伝律法違反をしたことになる。それでもパリサイ派はダビデを責めないのであれば、ましてダビデより大いなる者であるダビデの子、メシアを、口伝律法をもって責めることはできないはずである。

C)　イエスの応答②（マタイ 12：5）

マタイ 12：5　**また、安息日に宮にいる祭司たちは安息日を汚しても咎を免れる、ということを律法で読んだことがないのですか。**

- 神殿での祭司たちの労働は、安息日でも、律法違反にならない。

D)　イエスの応答③（マタイ 12：6）

マタイ 12：6　**あなたがたに言いますが、ここに宮より大いなるものがあります。**

- モーセの律法では、神殿での祭司たちの労働は、安息日でも、律法違反にならない。すなわち、安息日よりも神殿がまさるのである。その神殿よりもまさるものが、ここにいる。メシアは、神殿の主である。よって、メシアは、安息日にまさる権威を持っている。

E)　イエスの応答④（マタイ 12：7）

マタイ 12：7　**『わたしが喜びとするのは真実の愛。いけにえではない』とはどういう意味かを知っていたら、あなたがたは、咎のない者たちを不義に定めはしなかったでしょう。**

- 安息日であっても、ある種の労働は認められる。世話を必要とする人たちに飲食を与える仕事や医療に関係する仕事など。それらの仕事のベースにあるのは、真実の愛（ホセア 6：6）である。

F）イエスの応答⑤（ルカ 6：5）

ルカ 6：5　**そして彼らに言われた。「人の子は安息日の主です。」**

- メシアは、安息日の主である。口伝律法が禁止することでもメシアが容認すればよし、である。イエスがモーセの律法に違反しないかぎり、パリサイ派はイエスを罪ありとすることはできない。

G）イエスの応答⑥（マルコ 2：27）

マルコ 2：27　**安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたのではありません。**

- パリサイ派は、安息日を重視するあまり、イスラエル民族が造られたのは安息日を重んじて守らせるためだ、と教えていた。しかし本来、安息日は休息の日として、イスラエル民族のために設けられた。

III. 片手の萎えた人を安息日に癒やした出来事を通して（ルカ 6：6～11）

A）シナゴーグ【ユダヤ人の会堂】にて（ルカ 6：6）

6 節　**別の安息日に、イエスは会堂に入って教えておられた。そこに右手の萎えた人がいた。**

B）パリサイ派による罠（ルカ 6：7、マタイ 12：10b）

7 節　**律法学者たちやパリサイ人たちは、イエスが安息日に癒やしを行うかどうか、じっと見つめていた。彼を訴える口実を見つけるためであった。**

マタイ 12：10b　**そこで彼らはイエスに「安息日に癒やすのは律法にかなっていますか」と質問した。イエスを訴えるためにであった。**

C）イエスの対応（ルカ 6：8）

8 節　**イエスは彼らの考えを知っておられた。それで、手の萎えた人に言われた。「立って、真ん中に出なさい。」その人は起き上がり、そこに立った。**

D）人々の普段行っていること（マタイ 12：11～12）

マタイ 12：11～12　**イエスは彼らに言われた。「あなたがたのうちのだれかが羊を一匹持っていて、もし、その羊が安息日に穴に落ちたら、それをつかんで引き上げてやらないでしょうか。人間は羊よりはるかに価値があります。それなら、安息日に良いことをするのは律法にかなっています。」**

E）イエスの質問（ルカ 6：9）

9 節　**イエスは彼らに言われた。「あなたがたに尋ねますが、安息日に律法にかなっているのは、善を行うことですか、それとも悪を行うことですか。いのちを救うことですか、それとも滅ぼすことですか。」**

F）イエスによる癒し（ルカ 6：10）

10 節　**そして彼ら全員を見回してから、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。そのとおりにすると、手は元どおりになった。**

G）パリサイ派の反応（ルカ 6：11、マタイ 12：14、マルコ 3：6）

11 節　**彼らは怒りに満ち、イエスをどうするか、話し合いを始めた。**

マタイ 12：14　**パリサイ人たちは出て行って、どうやってイエスを殺そうかと相談し始めた。**

マルコ 3：6　**パリサイ人たちは出て行ってすぐに、ヘロデ党の者たちと一緒に、どうやってイエスを殺そうかと相談し始めた。**